

志村小・志村四中 小中一貫型学校設置検討会 第７回検討会の開催状況について

１ 第７回検討会の開催状況

（１）検討会の内容・議事要旨

令和４年４月２６日（火）午後６時１５分より、グリーンカレッジホールにて第７回検討会を開催した。

《議題》

１ 会長あいさつ

２ 新規委員紹介

新規委員の紹介を行った。

※別紙１：検討会資料１「志村小・志村四中 小中一貫型学校設置検討会 委員名簿」

３ 検討事項

（１）第３回学校名・校歌・校章作業部会の報告について

第３回の学校名・校歌・校章作業部会の報告及び小中一貫型学校の名称案の作成段階ステップ１（要件等）について、意見交換を行った。

検討の結果、名称案作成の要件等については、以下の内容で決定した。

今後は、この要件に沿った複数の名称案の作成を行っていく。

【要件等の内容】

①必須の要件

- 「志村」を使用すること。

②１つは満たさなければいけない要件

- 「学園」を使用すること。
- 「小中一貫校」を使用すること。
- 郷土愛を育む名称であること。

※別紙２：検討会資料３「第３回 学校名・校歌・校章作業部会の報告について」

（２）志村小学校の跡地活用に関する報告事項

志村小学校の跡地活用について、第２グラウンドとしての整備とともに、水道、トイレ、防災物資の保管倉庫の機能を備えたクラブハウスを設置する方向性を報告した。

※別紙３：検討会資料４「志村小学校の跡地活用について」

(3) 学校の伝統・歴史の保存について

学校の伝統・歴史の保存について、保存品の目的に沿ったスペースの設置、保存品の選定に関する方向性の確認を行った。

また、学校の象徴の候補となる樹木等の取扱い方法の可否を説明し、意見交換を行った。

検討の結果、取扱いについて、以下の内容で決定した。

①泰山木

新しい泰山木を小中一貫型の学校に植樹する。

②志村小110周年記念樹（ハナミズキ）

解体工事の影響を受けるため、志村小の区有地内に移植する。

③志村四中60周年記念樹（シダレザクラ）

解体工事の影響を受けるため、志村四中の敷地内で移植を行う。

④二宮金次郎像

小中一貫型の学校に移設する。

別紙4：検討会資料5「学校の伝統・歴史の保存について」

(4) 基本構想・基本計画に関する地域提言書（案）について

令和4年1月から3月の間に行ったワークショップの内容を基に作成した「基本構想・基本計画に関する地域提言書（案）」の説明を行った。

別紙5：検討会資料6「基本構想・基本計画に関する地域提言書（案）」抜粋

2 これまでの検討会開催経過

回	開催月日	内容
第1回	令和3年2月4日	●会の委員、会則、運営について、会長の選出 ●協議会意見書の内容確認 ●検討会の検討スケジュール ●跡地活用に関する報告事項
第2回	令和3年4月27日	●検討会と作業部会の運営について ●説明会及び意見募集の概要と意見・質問について ※緊急事態宣言再発令に伴い、書面開催とした。
第3回	令和3年7月29日	●第2回検討会（書面開催）の報告 ●第1回・第2回 通学区域・通学路作業部会の報告 ●跡地活用に関する報告
第4回	令和3年10月8日	●基本構想・基本計画の策定について ●第3回通学区域・通学路作業部会の報告について ●学校の伝統・歴史の保存について

回	開催月日	内容
第5回	令和3年12月13日	<ul style="list-style-type: none"> ●第1回学校名・校歌・校章作業部会の報告について ●第4回通学区域・通学路作業部会の報告について ●学校の伝統・歴史の保存について ●基本構想・基本計画の策定に伴う意見聴取について
第6回	令和4年2月21日	<ul style="list-style-type: none"> ●第2回学校名・校歌・校章作業部会の報告について ●志村小学校の跡地活用に関する報告事項 ●改築だより（第1号）について

3 次回検討会の予定

令和4年5月17日の開催を予定している。

志村小・志村四中 小中一貫型学校設置検討会 委員名簿

(令和4年4月26日現在)

※今年度から変更になった委員や役職は網掛けにしています。

区立志村小学校関係				区立志村第四中学校関係			
1	PTA	マユズミ モトヒコ 黛 基比古	志村小学校PTA会長 志村小学校CS委員	1	PTA	ハシモト ダイゴ 橋本 大吾	志村第四中学校PTA会長 志村第四中学校CS委員
2		イトウ ケイコ 伊東 典子	志村小学校PTA会計監査	2		サウ マリモ 佐藤 まりも	志村第四中学校PTA副会長
3		ヨシタ ヒデコ 横田 秀子	志村小学校PTA役員相談役	3		ヨシカワ タカユキ 横川 隆之	志村第四中学校元PTA会長 志村第四中学校CS委員
4	地域関係者	フクダ タカオ 福田 隆男	志村町会前会長	4	地域関係者	ヤマグチ マサル 山口 正春	サンシティ管理組合元理事長
5		イノウエ カズヤ 井上 一哉	志村城山町会会長 志村小学校CS委員 ★協議会会長	5		調整中	—
6		ハシモト カコ 橋本 加代子	志村五桜町会副会長	6		フジムラ ヨウイチ 藤村 行一	前野町五丁目町会環境衛生部長
7	学校関係者	フクダ ヨシミ 福田 好見	志村親和町会会長	7	学校関係者	ワダ ナツヒコ 和田 夏彦	志村第四中学校元PTA会長 志村第四中学校CS委員
8		ハセガワ コウイチ 長谷川 孝一	志村銀座商店街振興組合代表理事 志村小学校CS委員	8		ワタナベ ミホ 渡辺 美香	志村第四中学校元PTA会長 志村第四中学校CS委員
9		アサクラ トシヒコ 朝倉 利彦	志村小学校元PTA会長 志村小学校CS委員	9		イマダ ナオミ 今田 直美	志村第四中学校元PTA会長 志村第四中学校CS委員
10	学校長	イシカワ アキヒコ 石川 明彦	城山幼稚園園長 志村小学校CS委員	10	学校長	ナカムラ ヨシオ 中村 嘉男	志村第四中学校校長
11		サクマ ヤスヒロ 佐久間 康弘	志村小学校校長				

※通学区域・通学路の検討の際に出席する委員（6名）

※通学区域・通学路の検討の際に出席する委員（6名）

1	北前野小関係者	アイ アサヒ 阿井 隆	北前野小学校校長
2		イケダ コウタロウ 池田 恒太郎	北前野小学校PTA会長
3	志村坂下小関係者	マツノ コロ子 松野 薫子	志村坂下小学校校長
4		タムラ ユウコ 田村 裕子	志村坂下小学校PTA会長代行
5	緑小関係者	イチノセ テルアキ 市之瀬 輝明	緑小学校校長
6		ヤマダ タカユキ 山田 貴之	緑小学校PTA会長

○事務局
教育委員会事務局各課

○事務局取りまとめ
教育委員会事務局新しい学校づくり課学校配置調整第一係

第 3 回 学校名・校歌・校章作業部会の報告について

1 学校名・校歌・校章等の検討経過概要

※検討会については、学校名・校歌・校章等に関する説明内容や検討事項のみ記載している。

	開催日時	開催場所	説明内容や検討事項
第 1 回 作業部会	11 月 8 日 (月) 18 時 15 分～19 時 15 分	志村第四中学校 ランチルーム	<ul style="list-style-type: none"> 協議会から提出された意見書の確認 現時点での学校名・校歌・校章の方向性の確認 根拠法令等の情報共有 既存の校歌・校章の取り扱いについて意見交換 小中一貫型の学校の名称・愛唱歌・マーク (※) について意見交換
第 5 回 検討会	12 月 13 日 (月) 18 時 15 分～19 時 30 分	グリーンカレッジ ホール 教室 1	<ul style="list-style-type: none"> 第 1 回作業部会の報告 既存の学校名・校歌・校章の取り扱いの方向性の決定 小中一貫型の学校の名称・愛唱歌・マークの制定に関する方向性の決定
第 2 回 作業部会	1 月 18 日 (火) 18 時 15 分～19 時 45 分	志村第四中学校 ランチルーム	<ul style="list-style-type: none"> 検討会で決定した方向性の内容の確認 (既存の学校名・校歌・校章等) 小中一貫型の学校の名称案の作成について
第 6 回 検討会	2 月 21 日 (月) 18 時 15 分～19 時 5 分	グリーンカレッジ ホール 教室 1	<ul style="list-style-type: none"> 第 2 回作業部会の報告 小中一貫型の学校の名称案の作成方法の決定
第 3 回 作業部会	3 月 16 日 (火) 18 時 30 分～19 時 45 分	志村第四中学校 ランチルーム	<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫型の学校の名称案の作成方法の確認 作成段階ステップ 1 (要件・基本的考え方の設定) について意見交換

2 名称案の作成手順について

第6回検討会において決定した以下の作成手順に沿って進めていく。

※現在は、ステップ1の検討を行っている段階である。

段階	内容・方法
ステップ1	要件・基本的考え方の設定（以下、要件等）
	●検討会、作業部会で設定 「〇〇学園とする」や「志村は入れる」、「地域名は入れる」等の設定を行う。
ステップ2	名称案の作成
	●検討会、作業部会で設定 ステップ1の要件等に沿った複数の名称案の作成を行う。
ステップ3	名称案の絞り込み
	●アンケートの実施 ステップ2で作成した複数の名称案を基に、検討会以外への意見聴取を行う。 ※選択肢からの選択だけでなく、選択肢以外の新案を記載できる自由記述欄の設定も行う。 ●検討会・作業部会での絞り込み アンケートの結果を踏まえ、候補の絞り込み、検討会としての名称案の決定を行う。
ステップ4	名称の決定
	●教育委員会で決定 検討会からの名称案を踏まえ、最終的な名称の決定を行う。

3 要件等の考え方について

(1) 要件等の内容の考え方

NO	要件等の種類	特徴	
		自由度	認識度
1	●具体的な言葉を要件とする 「〇〇」を使用するといったもの。	低い	高い
2	●系統・分類を要件とする。 「地名を入れる」といったもの。	普通	普通
3	●抽象的なイメージを要件とする。 「地域を象徴した名前」といったもの。	高い	低い

(2) 満たすべき要件等の考え方

【複数の要件等を設定した場合】

※例として、A～Cの3つ要件を設定した場合、以下①～④の考え方がある。

- ①A～Cの全てを満たしていること
- ②A～Cのうち、1つ以上満たしていること
- ③A～Cのうち、2つ以上満たしていること
- ④A～Cのうち、Aを満たしたうえ、B～Cのうち1つ以上満たしていること

4 第3回作業部会で出た意見

要件等に関する意見交換の内容

○要件等の内容について

- 多くの学校では、地名が入っていることから地名を要件に設定することは必要だと思う。
- 区内初の小中一貫型学校の名称となるため、地域の他の小中学校との調和がとれるよう配慮する必要もあると思う。
- 区内で最初の小中一貫型学校の点から「板橋」を要件にすることも考えられるが、「板橋」と聞いて思い浮かべる地域は区役所がある地域になると思う。
- 志村小と志村四中の小中一貫型学校となることから「志村」を入れたいという方は多いと思う。
- 他区でも使用している「学園」は要件に設定しても良いと思う。
- 「〇〇学園」だけでなく、「〇〇小中一貫校」という名称案が作れるようにしても良いと思う。
- 人の名前（姓名）でも呼びやすさや語呂があると思うので、「学園」が合う名称「小中一貫校」が合う名称があると思うので、両方の名称案が作れるようにしておく方が良いと思う。
- 「具体的な言葉」の要件のみではなく、「抽象的なイメージ」を加えることも良いと思う。「郷土愛を育むような名称」とすることで、歴史を伝えられるような名称案を検討することもできると思う。

要件等の内容に関する作業部会の考え

要件等の内容については、具体的な言葉の要件として、「志村」、「学園」、「小中一貫校」、抽象的な要件として、「郷土愛を育むような名称」とすることとまとめた。

○満たすべき要件等について

- 満たすべき要件等の数を多くしてしまうと名称案の作成が狭まってしまうので、必要最低限で良いと思う。
- 「志村」については、必ず満たすべき要件とするほうが良いと思う。
- 「学園」、「小中一貫校」、「郷土愛を育むような名称」については、いずれか1つを満たしていれば良いと思う。

満たすべき要件等に関する作業部会の考え

満たすべき要件等については、「志村」を入れることを必須の要件とし、「学園」、「小中一貫校」、「郷土愛を育むような名称」のうち、いずれか1つを満たしていれば良いとする」とこととまとめた。

作業部会のまとめ

○要件等について

- 必須の要件として、「志村」を使用すること。
- 1つは満たさなければいけない要件としては、以下の①～③とする。
 - ①「学園」を使用する。
 - ②「小中一貫校」を使用する。
 - ③郷土愛を育む名称であること。

5 今後の作業部会の流れ

- 検討会で承認された要件等に沿って、複数の名称案の作成を進めていく。
- 作成した作業部会の名称案については、検討会に諮っていく。

志村小学校の跡地活用について

1 跡地活用に関する検討会の意見内容

- (1) 第2グラウンドとしての利用
- (2) 防災物資の保管倉庫の設置

2 跡地活用の方向性について

方向性の内容	方向性の具体的内容（案）
第2グラウンドとしての活用	<ul style="list-style-type: none"> ・第2グラウンドとしての整備を行う。 ・第2グラウンドの活用にあわせて、水道、トイレ、等の機能を備えたクラブハウスの設置を行う。
防災物資の保管倉庫の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブハウスを複合化し、防災物資の保管倉庫の機能を備える。

3 その他

- (1) 上記の内容を基本構想に反映していく。
- (2) 複合化の機能について、引き続き検討を行っていく。

学校の伝統・歴史の保存について

1 第5回検討会における方向性の内容

(1) 保存スペースについて

目的	方向性
学校の歴史	学校の歴史を伝える保存品を展示するスペースとして、児童・生徒・来校者等の動線も考慮して設置する。
歴史的教材	昔の保存品など、授業等で使用する歴史的教材を展示するスペースとして学校運営上の使用を考慮して設置する。
学校の象徴	シンボルとなるものについて、校舎外への設置を検討していく。

(2) 保存品の選定について

目的	方向性
学校の歴史 歴史的教材	学校運営上の活用も考慮して検討することもあるため、今後、移転の準備を行う中で、学校、CS、PTA 等により選定を行う。 選定においては、デジタル化の視点もとり入れて行う。
学校の象徴	規格が大型化する可能性もあるため、移設も含め設置について、検討会において検討する。

2 学校の象徴の候補について

(1) 対応方法可否一覧

対象候補	現存（※1）	移植・移転	接ぎ木・挿し木
泰山木	×	×	×
志村小 110 周年記念樹 (ハナミズキ)	×	○	○
志四中 60 周年記念樹 (シダレザクラ)	△	○	○
二宮金次郎像	×	○	—

(※1) 現存：現在の場所に現在のものを残すこと。

(2) 各候補の詳細について

①泰山木

枯れてしまっていることから、現在の泰山木を残すことはできない。

新しい泰山木を植えることは可能である。

②志村小 110 周年記念樹（ハナミズキ）

校舎等の解体工事を行う関係等から現存はできない。

移植、接ぎ木、挿し木のいずれも可能である。

③志四中 60 周年記念樹（シダレザクラ）

校舎等の解体工事の影響を受けるため、新校舎の配置によっては、一度移植したうえで、最終的に現存させることを検討できるが、移植の回数が増えることで、樹木への負担は増す。

移植、接ぎ木、挿し木のいずれも可能である。

④二宮金次郎像

校舎等の解体工事を行う関係等から現存はできない。

転倒防止対策等を行い、移設は可能である。

板橋区立志村小・志村第四中学校

改築に関する地域提言書

（案）

令和4年4月

志村小・志村四中 小中一貫型学校設置検討会

目次

はじめに	1
I 改築基本構想・基本計画に関する提言のまとめ	2
II 改築基本構想・基本計画に関する提言	5
(1) - 1 地域が学校とどの様に関わりたいか	5
(1) - 2 どんな学校をつくりたいか	8
(2) 学校の配置について	1 1
(3) - 1 地域と学校が連携・協働する部屋	1 4
(3) - 2 地域連携・協働ゾーンの配置・校地の利用	1 5
III 参考資料	1 7
(1) 敷地条件の整理（基本構想・基本計画策定支援事業者による整理）	1 7
(2) 活動経過	2 0
(3) ワークショップの様子	2 1

はじめに

「志村小・志村四中 小中一貫型学校設置検討会（以下、設置検討会）」は、志村小学校と志村第四中学校のPTA、同窓会、町会、地域コーディネーター、学校関係者、地域のまちづくり団体等によって構成される組織です。

設置検討会は、志村小学校と志村第四中学校の小中一貫型学校の運営に向けた円滑な準備を計画的に行うことを目的として、令和3年2月に発足しました。

これまで設置検討会では、通学区域や学校の伝統・歴史の保存、校名等について協議をおこなってきました。また、志村小学校と志村第四中学校の小中一貫型学校の改築に向けた基本構想・基本計画の策定着手に伴い、地域としての整備目標をワークショップ形式により、意見交換をおこなってきました。

この度、ワークショップや設置検討会の中で出された要望をまとめた施設整備に関連する提言書がまとまりましたので、板橋区教育委員会事務局に提言します。

本提言書を今後の基本構想・基本計画の策定、設計に活用していただき、新しい志村小学校・志村第四中学校がこれまで以上に地域と連携・協働し、児童生徒・地域に安心・安全を与え、地域とともに発展することを願っています。

志村小・志村四中 小中一貫型学校設置検討会

I. 志村小・志村第四中学校の基本構想・基本計画に関する提言のまとめ

(1) 第一回ワークショップ

「地域が学校にどの様に関わりたいか、どんな学校を作りたいか」をテーマにワークショップ形式で意見交換を実施。

(1)－1 地域が学校にどの様に関わりたいか

[地域交流について]

- ・ 地域住民の学習支援の場として、竹細工や老人会での輪投げなど地域の大人が積極的に子供たちに教える機会が重要。
- ・ 保護者を集めた交流会やおやじの会（保護者会）の活動が活発な地域なので、学校行事の観覧や授業参観など地域住民の学校利用しやすい施設が必要。
- ・ 卒業後も学校へ行くきっかけとして、スポーツなどで学校施設の一部開放が必要。

[立ち寄ってみたいくなる学校（施設・環境）]

- ・ 学校の雰囲気や中の様子が分かる誰もが使いやすい学校。
- ・ 地域/子ども/教員が交流する場所として、地域のコミュニティスペースがある学校。
- ・ 周辺に図書館がないので、地域図書館と複合化した学校。
- ・ 授業参観しやすい教室まわりとして、廊下と教室間をオープンにできる扉や、オープンスペースのある学校。
- ・ 地域との連携などの活動状況が見える地域の顔となる学校。

[地域と連携した活動ができる学校（地域活動・防災）]

- ・ 現在、生徒が行っている学校周辺の清掃活動を商店街と連携するなど、地域ぐるみの活動を生み出し、促進する機能を持った学校。
- ・ 防災に対しての意識が高い地域であるため、防災拠点としてハードだけでなく、児童生徒・地域合同の防災訓練等ソフト面の連携ができる学校。

(1)－2 どんな学校を作りたいか

[子どもが通いたくなる学校（まなび・空間）]

- ・ 小学校用、中学校用とするだけでなく、すべての児童生徒にとって、多様な居場所や相談できる場所を校舎の屋内や屋外にも用意できる学校づくりが必要。
- ・ 机に向かうだけでなく体験型の学び（ビオトープ・畑等）の環境の整備。
- ・ 空間を有効活用し、児童生徒 1 人あたりの面積を大きくし、可変性のある学習環境の整備。

[子どもを通わせたい学校（安心安全・防犯）]

- ・ 小中学生で体格差があるので、校庭での安全性や動線が重ならない配慮が必要。
- ・ 開放感や視線の抜けがある学校。
- ・ 死角を作らない空間づくりをすることで、いじめ対策 No1 をめざした学校。
- ・ 先生が働きやすく子どもたちに対応しやすい環境の整備。
- ・ 遊び場をはじめとする学童保育施設部分の配置は、とくに安全面での配慮が必要。

[学校で残したいもの・大事にしたいもの（文化・歴史）]

- ・ 学校周辺の清掃などの文化。
- ・ 泰山木や記念樹、門の校章など、モニュメントの展示スペースの設置。
- ・ 卒業生や地域住民とのつながりを大事にするため、歴史のアーカイブ化や VR での校舎再現など学校や地域の歴史を残す方法の検討が必要。

(2) 第二回ワークショップ

「建物配置を考えてみよう」をテーマに、計画地の法的条件や道路付け条件から考えられる以下の A から C の 3 案に対して、「よいところ」「気になるところ」などについて意見交換を実施。

【A 案】敷地北側配置案 (6 階建て程度)

【B 案】敷地南側配置案 (6 階建て程度)

【C 案】敷地南側配置案 (7 階建て程度)

学校の配置について

<意見のまとめ>

校舎の配置については、校庭と広場の大小 2 つの屋外活動スペースが確保でき、新校舎建設期間中も今の校舎を使える C 案に良好な意見が多かった。

A 案の良さとしては、新校舎がメイン道路である北側道路に近いことで、地域連携の活動状況などの学校機能を地域へ見える化しやすく「地域の顔」になれることや、「学校の顔」となる昇降口がわかりやすいとの意見があった。

3 案共通の意見として多かったことは、西側住宅への日影の影響を配慮し、西側に配置する建物ではできるだけ高さを抑えることや、校舎からの視線対策、地階設置などの低層化の検討があった。

[学校の配置について]

- ・校庭での安全性や動線が重ならない配慮として大小 2 つの屋外活動スペースを確保。
- ・工事期間中も、できるだけ通常時の教育環境に近づけるよう、運動場所の確保などに配慮。
- ・西側住宅へ日影が大きくならないよう、建物西側はできるだけ高さを抑えるなどの配慮。
- ・校舎からの視線対策について検討。
- ・地階設置など低層化の検討。
- ・「地域の顔」となれるよう、学校機能の見える化を意識。
- ・昇降口へのアプローチのしやすさに配慮。

(3) 第三回ワークショップ

「地域開放ゾーン・地域連携ゾーン・学校運営ゾーンの配置とアプローチを考えよう」をテーマに、「地域開放・地域連携したい部屋は？」、「学校の顔(入口)はどこに配置するのが良いのか？」、「地域連携・協働ゾーンへの動線は？」、「避難所として体育館の配置はどの階が良いのか？」について意見交換を実施。意見交換をしやすいよう、第2回ワークショップにて良好な意見が多かった配置C案を改善した案をベースに、平面ゾーニング案(下記イ案・ロ案)にて意見交換をおこなった。

【イ案】校舎西側中央アプローチ案

【ロ案】校舎北側アプローチ案

(3)－1 地域と学校が連携・協働すべき室

[地域と学校が連携・協働すべき室について]

- ・「板橋区立学校施設標準設計指針」にて挙げられている室に加えて、音楽室についても検討し、地域開放する場合は、近隣への音の影響にも配慮が必要。
- ・放課後に部活動などで使用のない室については、地域開放できる可能性があるため配置に配慮が必要。
- ・地域と連携・協働を行う室及びスペースは、低層階に配置するなどのアクセス面に配慮が必要。
- ・現状、陶芸小屋を地域で利用しているので、設置場所含め配慮が必要。

(3)－2 地域連携・協働ゾーンの配置と校地の利用

[地域開放・地域連携について]

- ・地域開放・地域連携ゾーンを1階に配置するなどし、非開放ゾーンとのセキュリティを明確に分けるような検討が必要。
- ・小学校の音楽室を低層階に設置し、盆踊りの太鼓の練習など地域活動にも利用できるよう検討が必要。

[アプローチについて]

- ・児童生徒が登下校する門は東西2か所必要。
- ・災害時やイベント開催時を考慮して、北側道路から校庭への搬入用の門が必要であるが、セキュリティに十分配慮した検討が必要。
- ・子どもが多くなるので、昇降口は小中学校用に分ける必要があると考える。学校側の考えも踏まえ、昇降口の大きさや配置を含め検討が必要。
- ・地域連携ゾーンは、正門と近く、校庭などの屋外活動スペースと連携しやすい配置とする検討が必要。
- ・災害時開放される部分は、校庭と連携が取りやすい配置とする検討が必要。

[避難所として体育館の配置について]

- ・浸水想定高さが3～5mとなるため、2階以上での配置の検討が必要。
- ・車椅子利用者等の移動に対応できるよう、エレベーターを設置し、日常の運用方法を含め総合的な検討が必要。
- ・学校機能と避難所機能は明確に分けられるよう配慮が必要。